

「大変」は「面白い！」

箏演奏家 立道 明美さん



こと
箏の演奏家として、市内外で多彩な演奏活動を展開されているほか、指導者として、箏教室の生徒を全国小中高生箏曲コンクールに出場させ上位入賞者を数多く輩出。小学校・福祉施設などで箏を使った体験教室やボランティア活動、チャリティイベントなど、多方面で活躍中の立道明美さんにお話を伺いました。

箏の演奏を身近なものに

「わんぱく弾ける」みでなごも弾けるところが箏の素晴らしいところ」と話すのは箏演奏家の立道さん。「80歳でも80歳でもステージで弾ける。たくさんの方が一音に弾けることも箏の特徴。気軽にできて長く続けられ、誰でも練習すれば必ず演奏できる楽器」と魅力を語る。

小やごころから自己主張と反抗心の塊だったという立道さんは、「お姫様のような人が弾いているかのような大層な楽器」という世間のイメージを覆すように日々奮闘しているという。例えば、イベントでは分かりやすく楽しめる曲を自らアレンジして演奏している。観客に合わせて童謡や歌謡曲、アニメの曲も演奏する。パーカッションやバイオリン奏者などのゲストを迎え、映画音楽やフランク曲などを演奏することもある。これらは誰でも気軽に箏の音を楽しんでもらうためだ。

「大変」は「面白い」

箏の譜面には漢字が表となったように「糸譜」を使う。弦に絶対音が無いので、五線譜では演奏が難しいのだという。ただ、現代の作曲家は五線譜で曲を作るため、それを糸譜に「翻訳」する工程が必要なのだ。立道さんは作曲家から直接依頼を受けて、その作業をなんとボランティアで引き受けているという。その理由は「楽器だけが良くなるだけなら、良い作品がなくなってしまう人が減ってしまう。それはほしくない。」

良い箏の曲が世の中にならなくなると、そこから今後数百年間、箏が良い楽器として残っていくとは思っていません」と使命感に満ちている。

「新しい曲が作曲家から届いたときにはワクワクします。単なる糸譜への「変換」ではなく、その曲に合わせて楽譜を書き起こすアレンジを行います。大変な作業ですが、「大変」なうちに『面白い』とやりと目を輝かせる。

舞鶴と芸術文化

舞鶴の芸術活動が今より活発になるために必要だと思つていてみて。

「音楽に限らず芸術に関する指導者はその道の高みを常に目指す必要があると思います。また、芸術分野を趣味としている方は、自分が好きでやっているのだから、一生懸命やることが大切。娯楽で終わらせて欲しくない。鑑賞者には『生のもの』に触れる機会を増やしてほしいですね。鑑賞者がいつか作品として完成します。ときれば鑑賞に誰かを誘って行く。そして何かを得て帰る。その広がりや表現者を大きく育てるのだと思います」と力強く語る。

「一つのことに夢中になることで楽しめたなあという演奏をこれからも続けていきたいです。ゼリ目的のこのイベントでも演奏したい。とにかく先入観なしで一度聴きに來いください」と笑顔の立道さん。2024年は代表を務める「箏アンサンブルおせい」の25回目のコンサートを市民会館で開催予定です。

まいづる花図鑑 103

【キクザキイチゲ】(キンポウゲ科) 見ごろ 花期 3~4月頃



近畿地方以北の山地の林縁などに生える多年草。葉は根出葉と莖葉とがあるが根出葉は付けないことが多い。莖は10~20センチ位で上部に3枚の葉を輪生する。莖の葉は三出複葉で小葉は不規則に裂ける。早春、莖の先に径3~4センチの花を1個付ける。花卉状に見えるのは萼片で10~13枚、白色または薄紫色を帯びる。名前の由来は「菊咲一華」で、花が菊に似て一輪の花を付けることから。地上部は初夏には枯れる。別名「キクザキイチリンソウ」ともいう。

【協力】 瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

